

令和5年1月10日

No. 10

布引だより



～ 一人ひとりがキラリ輝く布引の子 ～

布引小学校ブログもご覧ください→
<http://www2.higashiomi.ed.jp/nunosyo/>

新年 明けましておめでとうございます

昨年は、本校教育活動に多大なご理解とご支援ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、早いもので1年間の締めくくりの3学期が始まりました。

3学期の始業式に、子どもたちには二つの話をしました。

一つ目は、下学年のあこがれの先輩になってほしいということです。下学年はいつも先輩たちの姿を見ている。その姿が輝いていれば「かっこいい」「自分もあんな〇年生になりたい」と思うものです。逆になさけない姿を見せてしまえば、「あんなはずかしい〇年生にはなりたくない」と思うに違いありません。3学期



は次の学年のことを考えて、特に一つ上の学年のことをよく見ているので、下学年が見てあこがれるような〇年生になってくださいということをお話しました。

二つ目は「努力すること」についてです。12月にあったサッカーの世界カップで、「堂安律」という選手が、結構ゴールから遠いところから、ものすごいシュートを決めました。ニュースでこのシュートを見た私は、「この選手は天才だな」と思いました。試合の後、堂安選手は「あそこは、おれの場所だから」と自信満々に発言して、まわりから「ビッグマウス」と呼ばれて

いました。私も聞いていてあまりいい気分にはなりませんでした。でも、後から堂安選手がゲストで出た別の番組で、「あのシュートを打った場所は自分で何万回も何十万回も練習している場所、きっと世界中のだれよりもあの場所からのシュートを練習している。人よりも練習しているから自信がある。だから俺の場所と言ったんです。」と話しているのを聞きました。見えないところで、人の何十倍、何百倍も、血のにじむような練習したからこそ、あの1本のシュートだったということです。試合でのたった1本のシュートを見ただけで、「天才」の一言で片づけてしまっていた自分が恥ずかしくなりました。

何の努力もなしに、「無理」「できない」「苦手」の一言で片づけてしまっていることがあったら、堂安選手のシュートを思い出して、努力してみてもどうですかということをお話しました。次学年へつながる3学期、残りわずか3か月です。昨年同様、ご家庭のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

今年度も、向茂組様、ライフテックミツダ様、地域ボランティアの方々のご協力を得て、イルミネーションを点灯することができました。子どもたちには、みなさんを少しでも元気づけようと休みの日にわざわざ来てくださったり、仕事を休んで手伝ってくださったりしている方がいることに感謝の気持ちをもってくださいと話しました。子どもたちのためにご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。(なお、メタセコイヤのイルミネーションは、年末の風で電源コード上部接続部が切断されたため点灯していません。今後再度の点灯は予定していません。)